

令和5年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和5年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				アンケート結果より (R5. 7実施)
					1	%	1+2	%	
1 学力向上に向けた計画的実践	(1)学力向上に向けた授業改善等	◎学力向上プランに基づく確実な実践に結びつきたい。共通理解・共通実践を適宜図っていききたい。	【生】授業がわかりやすい。 【保】学校は、わかりやすい授業や学力向上(学習内容の定着)に努めている。 【教】活用力(思考力・判断力・表現力)を高める指導を行っている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	53	A	95	○授業が分かりやすいかの問いについては、生徒・保護者ともに毎年肯定回答のポイントが高いものの、学力向上には直結しておらず、引き続き本校の課題として捉えていく。 ◎「生徒指導の3機能を使いながら思考の流れを全教科でそろえる」ことの共通理解・共通実践の意識が大変高くなってきた。
		◎研究、カリ・マネ、生徒指導の繋がりを意識する雰囲気が見られ、引き続き授業改善に取り組みたい。	【生】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。(R7県目標値:95%) 【生】授業では、自分の考えを積極的に表現している。<カリ・マネの柱>	A 50%・95%以上 B 40%・85%以上 C 30%・75%以上 D 30%・75%未満	A	53	A	95	
	(2)校内研修の充実	◎教科部会の充実が、学力向上の基盤であることを教職員が意識している。	【教】教科部会に意欲的に参加している。 【教】教科部会の内容が充実している。	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	A	67	A	100	◎年度当初に研究の方向性や共通実践等について校内研修を実施したことで、研究の進め方など、研究の重点を全教科でそろえていく意識が高まった。
	(3)GIGAスクール構想の推進	◎ICTを学びのツールとして活用していくことが望まれる。積極的・意図的・効果的な活用への意識を高めたい。	【教】授業中にICTを活用して指導することができた。(R7県目標値:100%)	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	A	62	A	95	○R4と比較して20P以上の上昇であり、端末の活用率は大幅に上がっているが、「積極的・意図的・効果的」な活用について更なる取組が必要である。
	(4)学力向上ロードマップに基づく取組の推進	◎金沢教育事務所の重点事項を踏まえた授業実践に取り組む必要がある。	【教】学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導を行っている。 【教】「まとめ・ふりかえり」、「適用・活用」を意識した授業実践に努めている	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C	43	A	100	▼R4と比較して5～10Pの上昇であるが、学力向上プランが日々の授業において実践に生かされるよう指導を重ねていきたい。 ▼タイムマネジメントに対する意識は定着してきているが、質の高いまとめが課題であり、個人が授業を振り返る機会を設定したい。
		◎ネットルールの意識化と家庭学習を絡めて、家庭と協力して取り組む必要がある。	【生】自分で計画を立てて勉強している。(R7県目標値:75%)	A 40%・90%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	C	26	C	77	▼特に受験を控えた3年生の指導が課題であり、今後ナビ学習や定期テストの課題提出、放課後学習を通して、家庭学習の習慣化や進路決定に向けて指導をしたい。

令和5年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和5年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				アンケート結果より (R5. 7実施)	
					1	%	1+2	%		
2 生徒指導の 充実	(1)積極的な生徒指導の推進(認めて、褒めて、伸ばす)	◎自己肯定感の低い生徒が多い傾向にある。	【生】自分には、よいところがあると思う。 (R7県目標値:80%)	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	40	B	80	○引き続き、自己肯定感が高まるような積極的な生徒指導を進めていきたい。さわやかカードや放送、ホームページの配信等、一人一人の良さを広げる取組を重ねたい。	
	(2)いじめ・不登校への適切な対応	◎深刻ないじめは見られないものの、未然防止には重点的に取り組む必要がある。	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B	59	A	97	○学校へ行くことを楽しいと感じている生徒は多く、R4と比較して3P上昇した。温かな集団作りを目指した生徒会との取組を更に進めていく。 ○「いじめはいけないことである」という基本的な考え方を学校内だけでなく家庭にも伝えていく必要がある。	
		◎学校の取組を保護者や地域に発信する方法を更に工夫する必要がある。	【保】学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる。	A 40%・85%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	C	21	B	83	○アンケート調査の方法を工夫したり、生徒会活動でいじめ撲滅の取組を行ったりするなど、引き続き取組が保護者に伝わるよう工夫を凝らしていきたい。	
	(3)基本的な生活習慣を高める指導の徹底 「時を守り、場を清め、礼を正す」	◎時を守る (生徒・教職員の意識をもう一段引き上げたい。)	【生】時間を守って行動し、良い態度で学校生活を送っている。 【生】かほく市ネットルールを心がけている。	A 70%・95%以上 B 60%・90%以上 C 50%・85%以上 D 50%・85%未満	C	59	B	91	▼ネットに関する自己制御が難しくなってきた。ネット依存の生徒への指導は困難を極めている。	
		◎場を清める (清掃に関する生徒・教師間の意識格差が大きい。)	【生】黙働清掃ができています。 【教】生徒は、黙働清掃ができています。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	55	A	92	生徒と教員の数値ギャップが大きい項目である。生徒と教師の意識の差があり、教師の清掃指導も徹底させていきたい。	
		◎礼を正す (あいさつ日本一への意識は徐々に高まってきた。今後、地域でのあいさつにも力を注ぎたい。)	【生】学校でしっかりとあいさつや会釈ができています。 【保】わが子は家庭であいさつをしている。 【教】生徒は、学校でしっかりとあいさつや会釈をしている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	81	A	99	○「あいさつ日本一」の学校づくりに向けて取組を更に推進させていきたい。生徒会の重点的な取組として定着を図っていきたく考えている。 ▼後期に向けて再度、生徒の意識や実践力を高めるための取組を実施したい。	
	(4)教育相談の充実	◎相談したら先生や大人は助けてくれるという信頼関係を構築したい。また生徒の成長を認め褒めそして伸ばす指導を強化する。	【生】自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり、相談したりできる先生がいる。 【保】学校は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。	A 40%・90%以上 B 35%・85%以上 C 30%・80%以上 D 30%・80%未満	B	36	D	76	▼個に応じたきめ細かな指導についての項目における生徒の回答は、82%から76%へと低下した。日常的な様々な取組を通して生徒理解に努め、相談したら先生は助けてくれるという信頼関係を構築していきたい。	
						D	17	C	84	

令和5年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和5年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				アンケート結果より (R5.7実施)
					1	%	1+2	%	
3 信頼される学校づくり	(1)コミュニティ・スクールの推進	◎更なる地域の教育力の活用を進める必要がある。ゲストティーチャーを招いた道徳授業を実践したい。	【教】学校は、地域の外部人材等を積極的に活用している。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	A	91	A	100	◎昨年度に引き続き、地域人材の活用は進めており、生徒への教育効果は大きいと感じている。後期は道徳教育を中心として、地域人材を活用し、より効果的な取組や実践を行っていききたい。
	(2)積極的な情報発信と学校公開	◎ホームページの更新を計画的に行う必要がある。(1日平均アクセス数は約1,200件)	【保】学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校の指導方針や子どもたちの様子が分かりやすく伝わってくる。	A 40%・90%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	D	27	A	93	○肯定回答率は、R4と比較して2P上昇である。今後も、コドモンや学校ホームページを通して、分かりやすい情報発信に取り組んでいきたい。 ※ホームページカウント数: 1日約1200カウント
	(3)小中・中中連携の推進	◎地域の実態に基づいた実効性ある小中連携に取り組む必要がある。(9年間で育てる意識)	【保】学校を信頼して子どもを預けている。 【教】学校は、小中連携を積極的に進めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C	40	A	96	○保護者からの信頼は概ね得られていると思われるが、引き続き、きめ細かな対応を心がけていきたい。
4 教員の人材育成	(1)若プロの計画的実践	◎全職員を巻き込んだ若プロを継続させ、人材育成を計画的に進めたい。	【教】メンター・若手との定期懇談を充実したものにできた。(学期に1回実施)	A 60%・80%以上 B 50%・70%以上 C 40%・60%以上 D 40%・60%未満	A	67	A	100	◎昨年度より1回答(言い切り)が55→67と大きく上昇した。今後も若手教員以外の要望やアンケートを参考として「若手未来塾」を実施していきたい。 ★若手はベテランから学び、ベテランは若手を育てる意識を常に持つ。
	(2)ミドルリーダーの育成(組織力の強化)	◎計画的実践と結果の分析・検証を大切に取り組ませたい。	【教】様々な取組について、教職員間の共通理解が図られていた。	A 50%・70%以上 B 40%・60%以上 C 30%・50%以上 D 30%・50%未満	A	67	A	95	◎昨年度より1回答(言い切り)が41→67へと大きく上昇した。各主任を中心として組織力の向上、さらにはC4thや端末を活用した効果的な取組が行われている。
5 教職員多忙化改善に向けた取組の推進	(1)業務の効率化を図るための取組の推進	◎全体として超過勤務時間は減少傾向にあるが、各分掌主任の時間外勤務時間が多い状態が続いている。	【教】最終退校時間や定時退校日を意識して業務を進めるなど、「働き方改革」の推進に努めている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	48	B	86	○教員の意識は確実に高まっている。(R4後期は1回答46%、1+2回答82%) ○業務改善意識が低下しないよう引き続き取組を進めていきたい。
	(2)部活動練習等の効率化	◎部活動地域移行に向けて教職員の意識改革をさらに進めたい。	【教】部活動の練習時間について、常に効率化を考えて取り組んでいる。	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	A	57	A	95	○言い切り回答する教員は確実に増えてきている。(R4と比較して7P上昇)完全下校時刻も年間通して18時とし、余裕を持って対応できている。